



日本女性会議 2020 あいち刈谷

かけがえのない“わたし”を生きる
～ものづくりのまちから発信～

イベント レポート

さんかく21・安城

参加者46名(今回初めて運営として10名が参画)

日本女性会議は男女共同参画に関する国内最大級の会議で、男女平等社会の実現に向けた課題の解決策を探るとともに、参加者相互の交流とネットワークづくりを目的にしています。第一回の名古屋市(1984年)以来、全国各地で開催され、今回の刈谷大会は愛知では2度目となります。コロナ禍の中、初のオンライン開催となりました。

基調講演

『コロナ禍とジェンダー』

講師 上野 千鶴子 氏
(社会学者・東京大学名誉教授)

今回のコロナで女性の割合が高い非正規労働者の多くが解雇になりました。また一斉休校に対応した親の多くは女性で、テレワークが始まると夫が優先され、家事負担が増えたのも女性でした。このように、男女格差の拡大がいろいろな形で表れています。

世界のコロナ対策では、ニュージーランド・台湾・ドイツ・北欧の女性リーダーの活躍がみられました。現在世界の女性リーダーは7%いますが、それらの国々はリーダーに性別を問わないレベルに民主主義が成熟した社会になっているという背景があります。日本のジェンダーギャップ指数は年々下がり121位で、政治の分野だけ見るともっと低い順位です。これは日本が後退しているわけではなく、ほかの国の女性を取り巻く環境が改善されたということです。

女性たちが我慢してきたことが、次世代へ我慢を強いて被害者が加害者になってしまう可能性があります。フェミニズムは女性が歯を食いしばって男性のようになることではありません。意思決定の場に女性が増えることで世の中が変わり、弱者が弱者として尊重される社会になることを望みます。

記念講演

『女性が社会を動かすとき』

講師 大谷 貴子 氏
(NPO法人全国骨髓バンク推進連絡協議会 顧問)

講師の大谷氏は、若くして骨髄性白血病を発症し、助かる可能性は骨髄移植しかないという体験から、日本初の骨髄バンク設立に貢献しました。

また、治療のための抗がん剤で、子どもを産めない体になってしまっていたことを知り、「抗がん剤投与前に卵子・精子を冷凍保存できたら、出産のチャンスが増えるのでは。」と思い、がん治療と不妊治療が同時にできるように医療分野と社会に働きかけました。

そんな中、小さな子どもを残して亡くなった姪のケースから、子どもたちへのケアや家族で看取するための行政支援、情報の大切さを強く訴え続けました。

こうした活動の結果、来年度から治療前のがん患者の卵子・精子冷凍保存へ助成が決まりました。

最後の大谷氏の言葉は、「私は助かったが、みんなが平等に生きるチャンスを得るために、今、私ができることをやる。問題に気付いたら、言い続けることが大切。」でした。

分科会

人生100年時代

～高齢者のつながりづくり～

2020年4人に1人が70歳以上の高齢者である。
高齢者向けの地域行事の出席者は女性が圧倒的に多いのに、運営側は男性ばかりなのはどのようなのだろうか？

～秋田県の実践例～

「県立美術館を使って、先輩たちの展覧会を開催」
・内容を知らせずに色々な世代に集まってもらい、29人の高齢者を取材して、普段生活している部屋や冷蔵庫の中を再現したり、洋服の展示、生活様式のパネル展示等をおこなった。
・展覧会が目的ではなく、高齢社会を学ぶのが目的である。年の差がある友達を持つと、元気が出るのが分かった。

わたしが元気に活躍する地域づくり

地域の自治会・町内会の住民構成が変化している。高齢化がさらに進み、世帯人口は減少。独居高齢者の8割が女性。全国的にも自治会・町内会の役割は行事中心から福祉・防災・くらし・経済へ変わっている。そのなか高齢男性だけの意見では固定化しがち。女性や若者のニーズを集める工夫が必要。多世代交流できる工夫を取り入れる。若い人に参加してもらったら口を出さず任せきる。うまくいかなければやり直す。
頭も心も柔らかく。



生き抜く防災withコロナ

～アウトドアから学ぶ新しい知恵～

- ・防災を特別なものしてとらえず、普段から家庭の中に取り入れる。
- ・幼いころから楽しく学ぶことが、いざという時に役に立つ。
- ・アウトドアスキルは防災に役立つことが多い。
- ・老若男女関係なく、それぞれの視点から協力する体制づくりが大切である。

防災三原則

- 「想定にとらわれない」
- 「率先して避難せよ」
- 「最善を尽くせ」



生と性の多様性をみとめあうために

～教育・企業・行政の立場から～

LGBTQとは性的少数者の総称

L：レズビアン(Lesbian) 同性に惹かれる女性

G：ゲイ(Gay) 同性に惹かれる男性

B：バイセクシャル(Bisexual) 両性に惹かれる人

T：トランスジェンダー(Transgender) 心と体の性が一致しない人

Q：クエスチョニング(Questioning) 惹かれる性や心の性を迷っている・決めたくない人

当事者(中学教諭)：隠して働くことに自分が耐えるのに限界だったころテレビなどでマイノリティの存在感が大きくなってきていて、カミングアウトのタイミングだと思った。もしうまくいかなくても受け止めてくれる友人たちが後押しになり学校でのカミングアウトが実現した。

企業：当事者の社員とともに多様な社員が働ける環境作りに取り組んでいる。社内研修を充実し、就業規則の見直しによる、性別適合手術・ホルモン治療・養子縁組にも適用できる休暇がある。

行政(豊明市)：職員研修は必須で、市職員だけでなく市議、児童・民生委員、学校関係者にも実施。男女の表記をなくす、結婚祝いを同性婚も同等に扱う予定。